

共同配送における、ASN入荷検品レスの実現

※共同配送とは・・・1台の車両で複数メーカーの荷物を積み合わせて配送すること



目次

- サマリー
- 取組みの背景・目的
- 取組み内容
 - 取組みスキーム
 - 実現に向けた課題
 - アクションプラン（課題解決）
- 効果/成果
 - 新規性
 - 課題克服性
 - 業界への啓発/普及効果

サマリー

概要

- キューピー、キューソー流通システム、加藤産業の3社の取組みから、ASN入荷検品レスのメーカー共配全体への拡大

目的

- メーカー共配全体へのASN入荷検品レス拡大による荷待ち・荷役時間の削減や積載効率の向上
- ドライバー生産性向上とともに物流全体の効率化を加速

新規性/ 創造性

- **業界標準を志向**したシステム・運用・企業連携を構築
- 物流課題を解決する**ASN入荷検品レスプラットフォーム**を整備

継続性/ 課題克服性

- メーカー共配全体でのASN入荷検品レス取組みにより、**①検品時間ゼロ化、②積載効率の向上、③荷役作業の低減**

業界への啓発/ 普及効果

- 業界共通プラットフォームとして整備することで、**「個別最適化」から「全体最適化」にシフト**
- 業界普及・企業参画の拡大が進むことで、目指すべき姿である**フィジカルインターネットの実現に繋がるデジタル活用事例**

■ 連携企業紹介

連携企業

企業	加藤産業(株)	キューピー(株)	(株)キューソー流通システム
			
設立	1947年8月22日	1919年11月	1966年2月1日
本社所在地	兵庫県西宮市松原町9番20号	東京都渋谷区渋谷1-4-13	東京都調布市調布ヶ丘3-50-1
事業内容	総合食品卸売業 カンピー製品販売元	食品製造販売等	倉庫業 貨物利用運送事業等
事業所数	11支社 26支店	6工場 21支店・営業所	65営業所・センター
物流拠点	全国83拠点（24年4月時点）	全国11拠点	全国70カ所以上
売上高	【単体】7,099億円 【連結】1兆1,698億円(2024年度)	【単体】2,056億円 【連結】4,840億円(2024年度)	【連結】1,952億円(2024年度)
資本金	59億3,405万円	241億4百万円	40億6,311万円
上場証券取引所	東証プライム	東証プライム	東証スタンダード

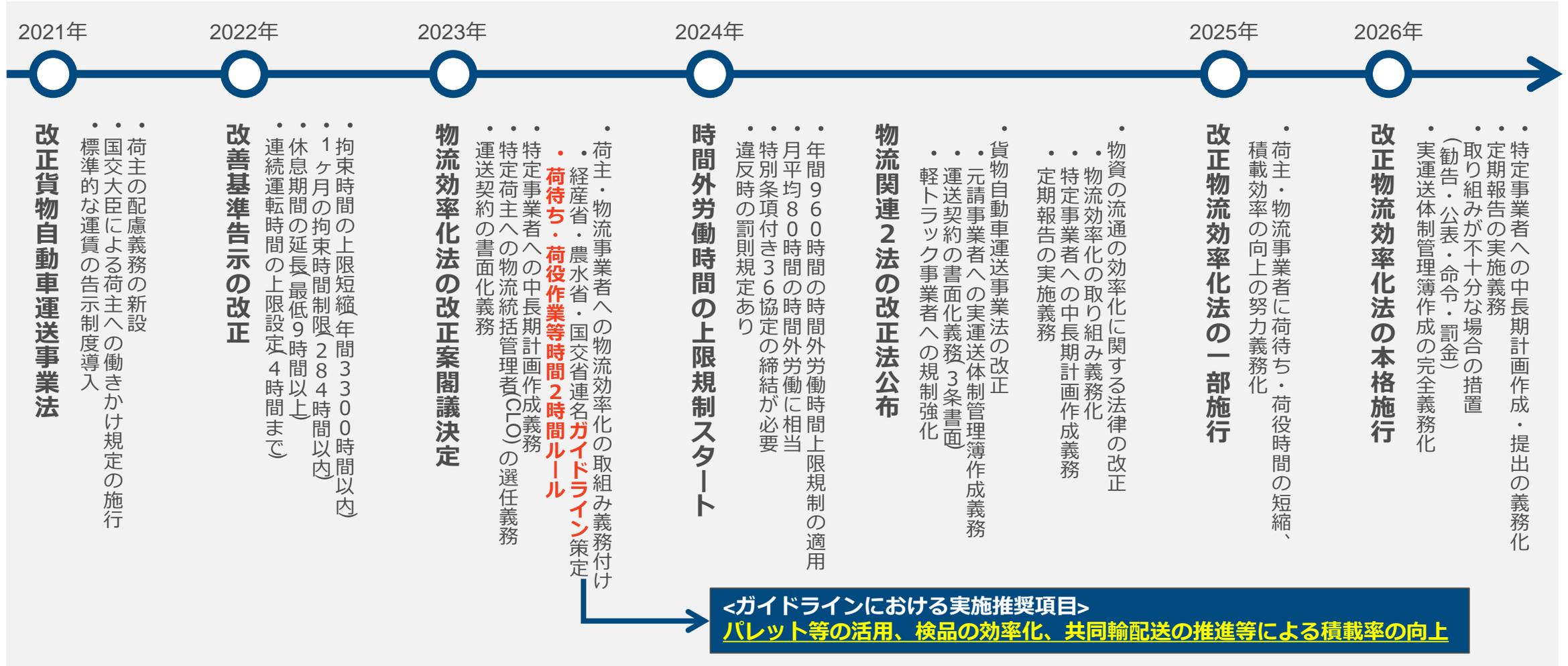
*本資料での表記は以降、「加藤産業」「キューピー」「キューソー」とする

| 背景 · 目的

背景 物流関連法

物流課題に対する効果的な施策/手段として、**ASN入荷検品レス**の取組み重要度が高まっている

課題キーワード→荷待ち・荷役時間の削減・積載効率の向上・ドライバー滞在時間2時間以内



背景 ASN入荷検品レス経緯



目的

メーカー・物流事業者・卸の連携により、ASN入荷検品レスの取り組みを拡大し、納品効率の向上を実現。

(荷待ち・荷役時間の削減や積載効率の向上等)

さらに、ASNを活用することで伝票レスを実現し、物流業務全体の効率化を加速させる。

(ドライバー・荷役・事務作業員等の生産性向上)

■ 取組み内容

取組みスキーム



実現に向けたアクションプラン

これらに対応できる共配物流事業者の存在が必要

課題	問題	Action
01 キューソー共配 メーカー拡大	①共配メーカーごとにシステム構築することは非現実的	共配荷主間連携
	②共配メーカー同士でお互いの共配事情を知らない 共配メーカーごとの事情も様々で進め方がわからない ※在庫メーカーと無在庫メーカー（集荷型）が存在	標準システム化 荷主パターン化 運用アレンジ
	③出荷指図のタイミングが遅い（バラバラだった）	リードタイム延長
	④事業所コード・商品コードが独自コード	共通コード活用
02 納品先拡大	⑤小売専用センターで固有の運用ルール	小売連携
	⑥商物分離型のセンター運営	標準システム相互連携
03 効果最大化	⑦多品種小口ミルフィーユ納品は積載効率が悪い	物流機材活用
	⑧紙伝票文化	デジタル化

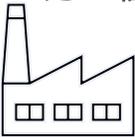
キューソー共配メーカー拡大 アクション①

①共配メーカーごとにシステム構築することは非現実的

(従来)



キューピー
(メーカー個別)



FINET



得意先 (納品先)



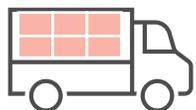
共配メーカー毎の対応は非現実的

<固定観念>

物流業者のデータ送信先は、
発荷主向けに限定。

(現在)

キューソー



直接送信

FINET



得意先 (納品先)



共配メーカーはシステム対応不要

<発想転換>

ASNを活用する対象は着荷主。
物流業者から直接送信がシンプル。

アクション
標準ASNシステムにて
キューソーによる共配一括送信

機能を装備



共配メーカー毎の
対応不要化

共配メーカーは
システム対応不要

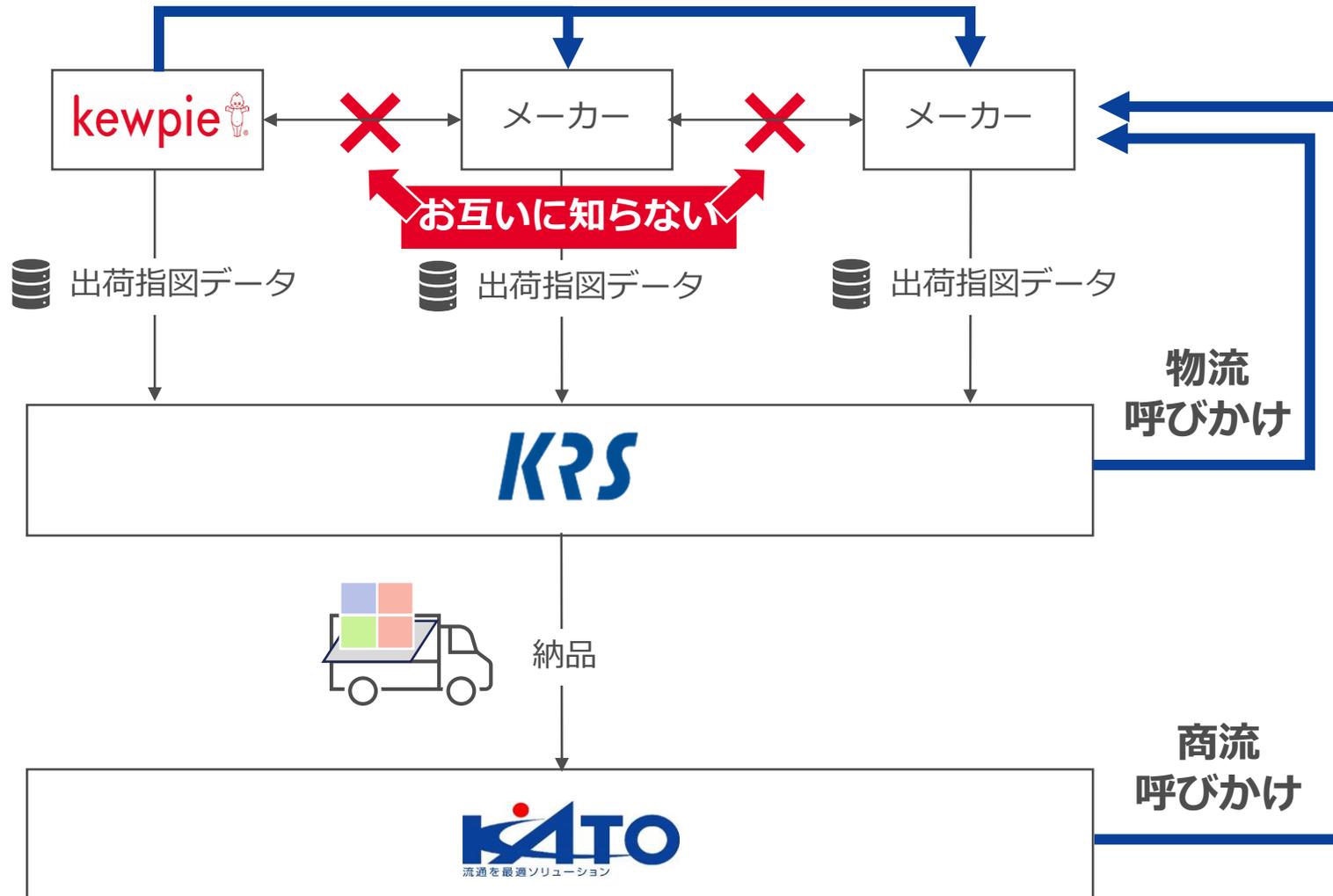


代わりにキューソーが必要な
受注リードタイムや
各種コード整備に協力

キューソー共配メーカー拡大 アクション②

②共配メーカー同士でお互いの共配事情を知らない

荷主連携



アクション

加藤産業（商流面）
キューソー（物流面）
キューピー（荷主連携）
**3社共同で
共配荷主へ参画依頼**

キューソー共配メーカー拡大 アクション③

③荷主毎にリードタイムがバラバラで統一作業ができない

前提) 受注出荷リードタイムLT2



アクション（業界の動きとして）

日食協物流問題研究会を通じた各種取り組みにより
「タイムシェア」「LT2納品＋午後受注」が徐々に浸透
LT2出荷定着メーカーのASN作成に着手

2022年まで) キューソー共配のうち、LT2メーカー率（物量率）=18%

・・・ほとんどのメーカーが間に合わない状況

2024年現在) 2022年以降LT2率が高まり、現在では78%まで上昇

キューソー共配メーカー拡大 アクション④

④事業所コード・商品コードが独自コード

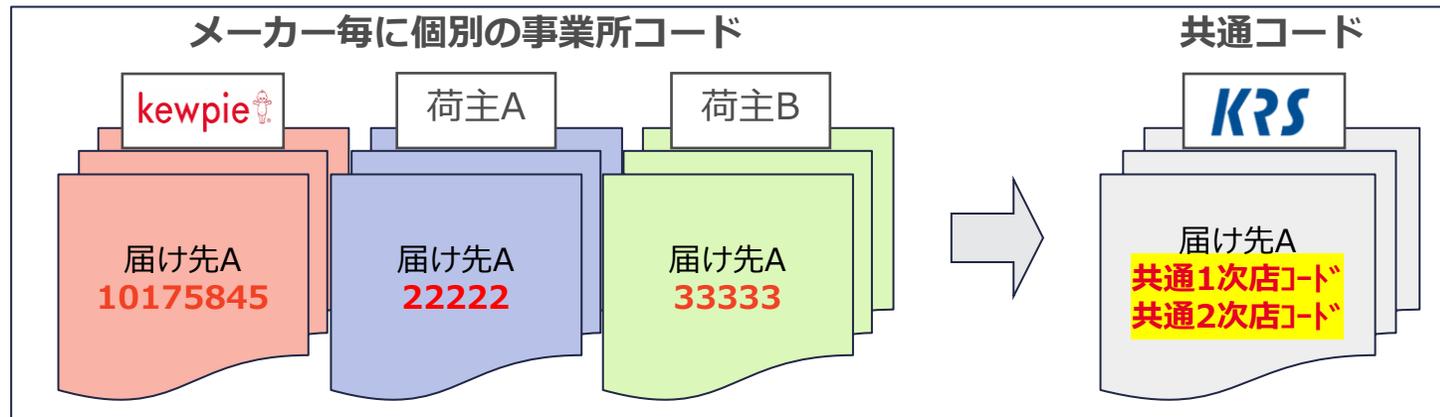
アクション

『事業所』
『商品』は
EDI取引可能な
共通コード整備

事業所コードは
EDI受発注で
使用している
**共通1次店・2次店
コード採用**

商品コードは
JAN・ITF採用

同時にサイズ・
重量情報も補完。

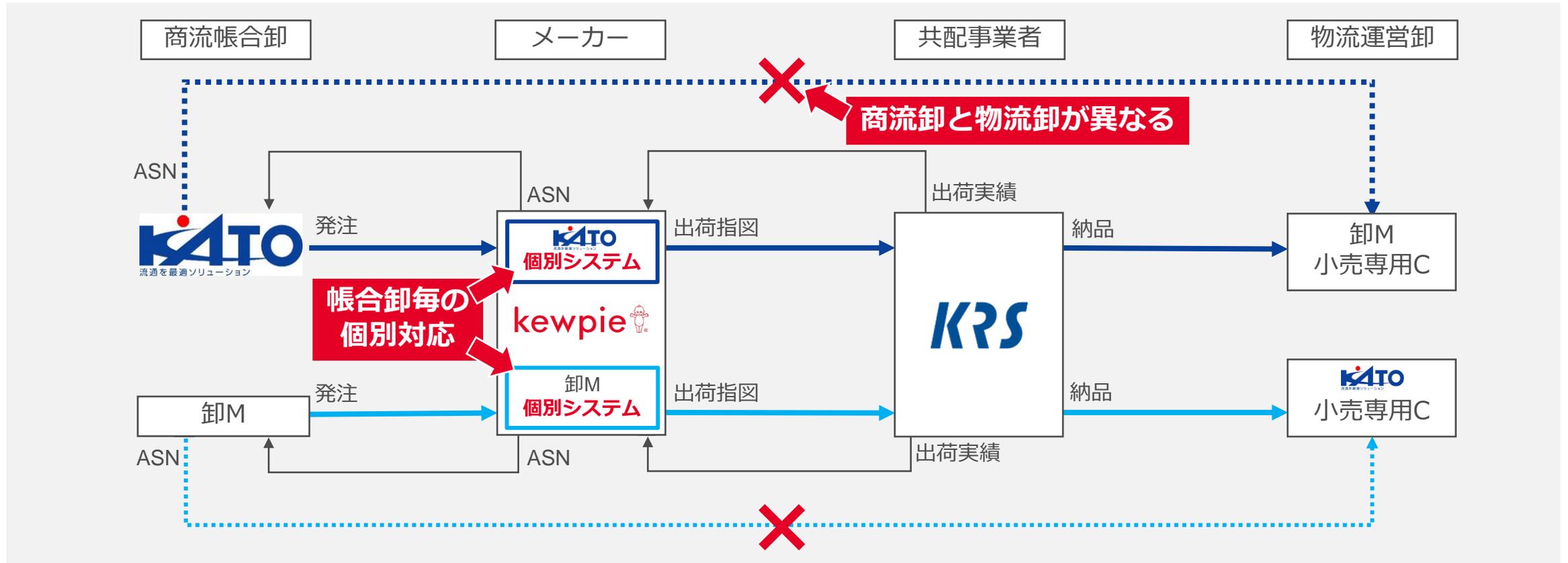


商品① 荷主品コード 21405	メーカー名	キューピー マヨネーズ				JANITFコード
	商品名					
	規格	450g	入数	20		
	希望小売	520	賞味	13ヶ月	温度帯	
商品② 荷主品コード 123AB	メーカー名	荷主A 商品②				JANITFコード
	商品名					
	規格	200g	入数	5×6		
	希望小売	240	賞味	12ヶ月	温度帯	
商品③ 荷主品コード DB987	メーカー名	荷主B 商品③				JANITFコード
	商品名					
	規格	549g	入数	6×2		
	希望小売	0	賞味	10ヶ月	温度帯	

将来の物流標準事業所コード・物流商品マスタへの置き換えも視野に準備

納品先の拡大 アクション

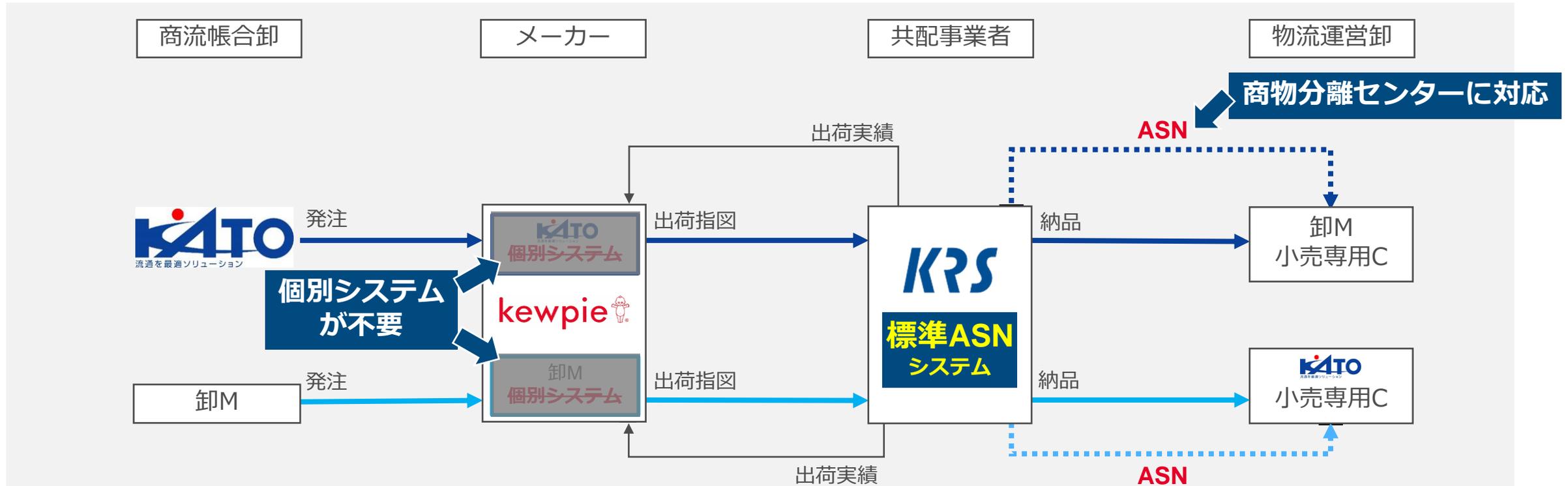
従来のメーカー・卸の個別ASNシステムの問題



商流卸と物流卸が異なる小売専用センターでは、メーカー・卸で個別ASNシステムの構築では対応が困難
→ **商流卸と物流卸の一致が前提**となり、**納品先・共配メーカーが限定**されてしまう

納品先の拡大 アクション

標準システムを相互利用することで課題解決



標準ASNシステムを卸が相互利用すれば、商物分離型センターにも適用が可能
共配においても帳合卸に関わらず、ASNを作成可能

■ 効果・成果

新規性/創造性

業界標準を志向したシステム・運用・企業連携を構築
物流課題を解決するASN入荷検品レスプラットフォームを整備

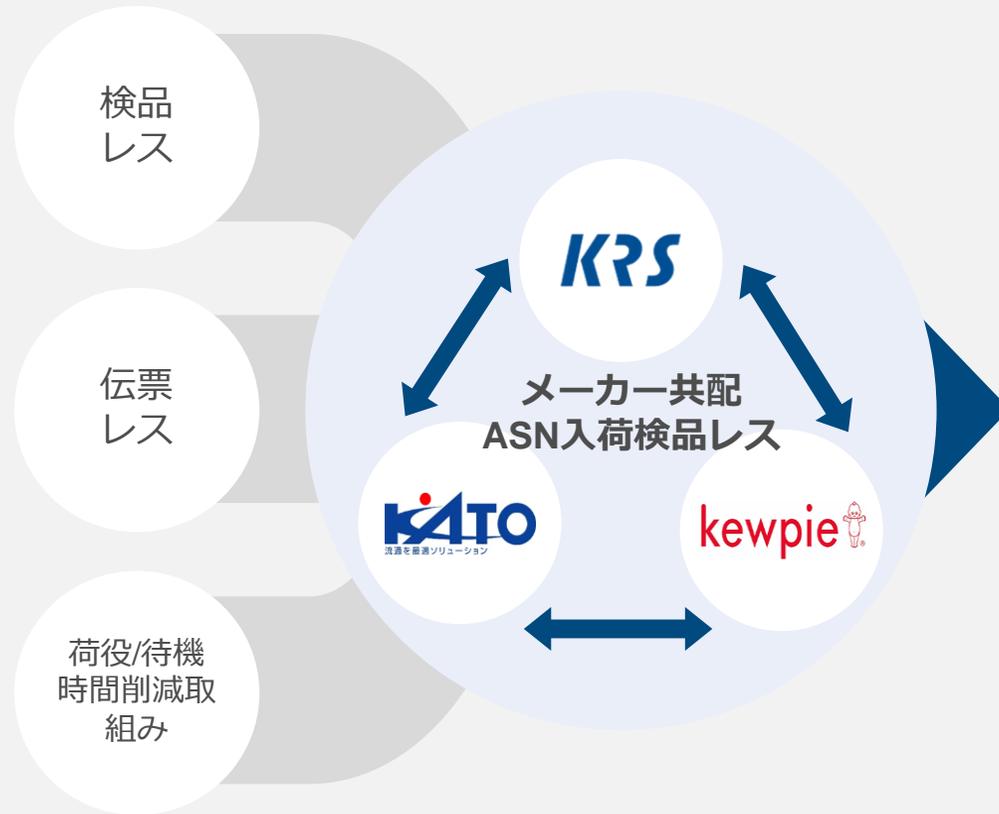
As-Is
個別/限定取組み

To-Be
企業連携/業界標準志向

Solution
共通/標準化

Benefit
業界標準化による効果

Goal
実現する姿



業界標準
パッケージ
の構築

参画企業の
規模を問わない

業界全体の
荷待ち時間の解消

物流の
デジタル化が加速

持続可能な物流の実現
物流業界の危機解消

継続性/課題克服性

発荷主・物流事業者

- ASN活用による検品レス効果
**メーカー共配全体での検品レス取組みにより、
検品時間ゼロ化**
- 検品レス納品条件の設定により
ドライバーの納品時荷役作業ゼロ化
- 検品レス効果最大化のために受発注運用を見直し、
1運行あたりの納品数量15%増
※通年実施による車両効果は測定中

着荷主

入荷検品時間の短縮

*1車両で15メーカー、150SKU共配の場合



業界への啓発/普及(参画)効果

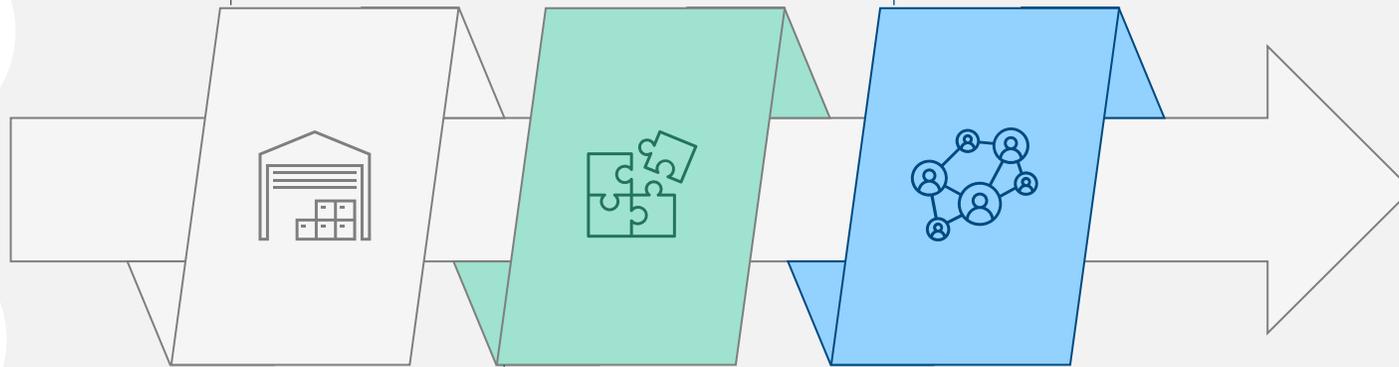
加工食品業界のあるべき姿・目指すべき姿

As-Is 従来の物流状態

- 企業・拠点ごとのクローズドな物流
- 属人的で非効率なオペレーション
- 荷物単位での個別最適
- 情報連携の断絶、分断されたシステム
- 物流設備・車両などの専有利用
- 計画主導・静的な配送設計
- 温室効果ガス排出の課題

To-Be フィジカルインターネット状態

- 複数企業・拠点間でのオープンなネットワーク
- デジタル基盤による自律・協調オペレーション
- モジュール単位での全体最適(ユニットロード等)
- リアルタイム・シームレスなデータ共有
- リソースの共有・動的な割り当て
- 需要に応じた動的最適化(AI/IoT活用)
- サステナブルな設計(CO2削減・循環型)

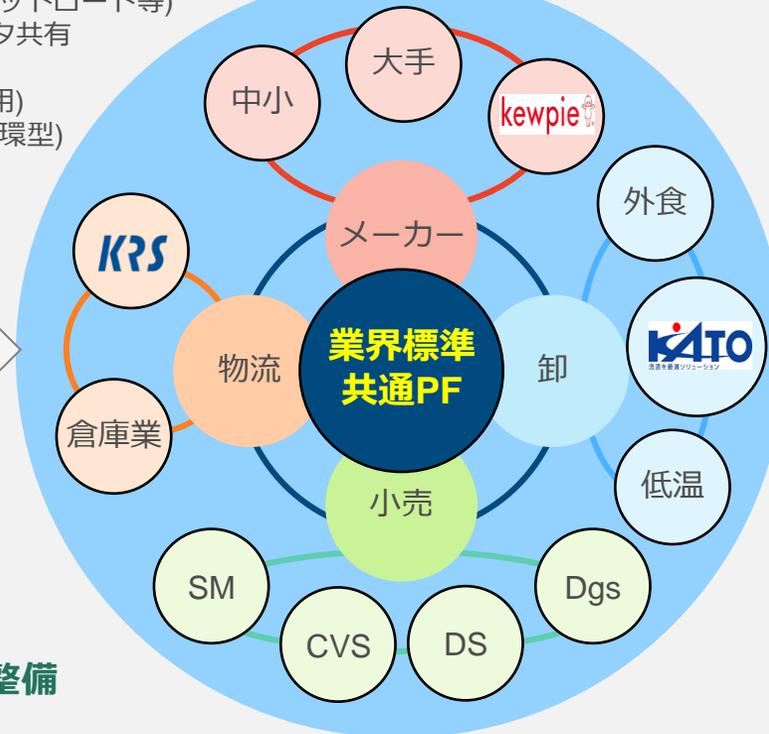


DXの推進・デジタル活用例

キューソー共配ASN入荷検品レス

- 標準ASNシステムを共通プラットフォームとして整備
- 喫緊の取組み課題である伝票レスへの展開
- 参画企業の拡大による「個別最適化」から「全体最適化」へのシフト

業界全体連携



*PF=プラットフォーム

